

令和4年度 市長と語るまちづくり懇談会（周南公立大学）会議録

日 時：令和4年10月18日（火）午前11時から午後0時30分まで

場 所：周南公立大学

テーマ：住みたいまち周南になるために

出席者：周南市長 周南公立大学の学生

シティネットワーク推進部（部長、市民の声を聞く課長） ほか

1 懇談会の流れ

- (1) 開会
- (2) 懇談
- (3) 閉会

2 懇談の内容

【周南市のイメージや印象について】

- 台風で牡蠣筏が近辺の海岸に漂流したと聞き確認に行ったところ、地域住民により片付けられていた。また、周南市ではイベントの際にも多くのボランティアが運営を手伝っている。すばらしいまちだと感じた。
- まちがきれいで、広い公園や動物園、商業施設、多くの自然があり、高齢者から子どもまで住みやすいまちである。
- 動物園や工場夜景、須金の梨・ぶどう狩りに出かけたが、子どもや家族連れが多い印象を受けた。公園も広く、子育てしやすいまちだと感じた。
- 大学の公立化により、観光などではなく市外から移り住むことに取り組んでいるという印象がある。産後ケアなど悩まれる方にも寄り添っていけるまちだと思う。
- 大学の公立化などの取組や多くのイベント開催により、若者向けのまちづくりを推進している。
- 工場夜景がとてもきれいであり、観光客にも誇れる最高のスポットだと思う。
- イベントが多く開催され、地域のコミュニティを大切にしている。
- 新幹線の停車駅があり、山口県の中心という印象がある。大学は、地域やボートレース場のイベント、スポーツフェスタへの参加など市との関わりも深い。県外からの学生も多く、大学内も盛りあがっている。
- 子育てがしやすい魅力あるまちだと思っている。若者の人口流出を防ぐことが課題としてあると思うが、子育て世代になると周南市に戻ってくる人も多いと思う。
- 公園や商業施設に子どもや家族連れが多い。子育てがしやすい環境があると思う。

〈市長のコメント〉

周南市に対していいイメージを持っていることに驚いている。市民がまちをつくってくれていることが明るいイメージになったと思っている。課題もたくさんあるが、期待に応じてこのまちをどうにかしないといけないという思いである。産後ケアの話もあったが、赤ちゃんを育てる母親が元気でないといけないとの思いがあるので、予算をつけている。

【子育てに関することについて】

○市外から人を呼び込み、周南市で子育てをしてもらうには、まず、現在周南市に住んでいる人がどう感じているかを把握し、大切にすることが重要だと思う。大学周辺は坂が多いので、過ごしやすいまちにするには交通手段を整えなければならない。子どもを抱えた親がバスに乗るときは大変である。若者、子育て世代、高齢者に至るまで市民全員に優しいまちでないといけない。

〈市長のコメント〉

周南市は広く山間部も多いため、車がないと不便である。車を運転する人が増えて公共交通の便が減ったことで利用しにくくなるという悪循環になってしまった。中山間地域の一部では公共交通はなくなり、生活交通をそれぞれの地区で運行している。ようやく徳山駅でICカードが使えるようになり、今年度末には防長バスでも使えるようになる。1つ1つ改善して、住みやすいまちにしていく。

【通学に関することについて】

○雨の日に定員オーバーのためバスに乗れない日もあった。バスの本数を増やしてほしい。
○最寄りのバス停のバスの本数が少ない。大学で授業を受けるのに、かなり早い時間に、乗客の多いバスに乗らなければならない。雨の日は乗れない日もあった。
○自転車だと坂がきつい。車を持たない学生もいるのでバスを充実させてほしい。
○バスと電車の連携がとれておらず、乗り継ぎのため駅で1時間待たなければならないことがある。

〈市長のコメント〉

周南公立大学行きのバスが満員であるのを見て、人が増えたことを実感し嬉しく思っていた。しかし、今後学生数も増えるので、学生にとってバスが利用しやすくなるよう考えなければならない。防長バスとも課題を挙げながら協議しているところである。

【学生の活動内容及び今後活動したいことについて】

○女子サッカー部に所属しており、地域の子どもたちを対象にサッカー教室を開催している。コロナ禍で子どもたちの活動も限られる中、保護者も喜んでいるので継続したい。また、ナベヅルのねぐら整備ボランティア、地域の清掃活動も行っており、これも継続したい。
○去年は、きさらぎ文化祭で若者の人口流出を防ぐにはどうすればいいかについて話をする機会があった。地域貢献推進委員会（※1）の委員長をしている。学生が地域で活動できるような環境作り、ボランティア活動や地域活動を企画できるような人材育成をしたい。小学校でも教育ボランティアをしている。
○学生会執行部で活動し、学校の運営業務に関わる全般、学生団体を統括している。学生の力が必要な場合に、大学の地域共創センターからの連絡を受け、学生にしかできないことを請け負うなど、センターと学生をつなぐ役割を担っている。大学が公立化したことで執行部の仕事が増え、貴重な経験となっている。学生団体が増えてきたので、もっと地域に進出したいと思っている。大学全体を盛り上げ、地域の活性化にもつなげたい。
○徳山下松港の清掃活動や大津島での海底ごみの引き上げのボランティア、スポーツフェスタでのラグビー教室、あじさい通りの清掃活動に参加した。

- 周南リビングラボで「持続可能な社会×カードゲーム」というテーマで活動に取り組み、萌えサミット実行委員会にも所属している。サブカルチャーを通じた若者向けのまちづくりに興味がある。
- 平和教育に関する活動をしている。周南市は回天という歴史的遺産があるにもかかわらず、説明できる人がほとんどいない。歴史は誰かが伝えていかないと廃れてしまう。従来行われてきた平和教育のみでなく、自分たちが考える新しい平和教育を周南市で行うことを考えている。今生きている自分たちが語り継いでいきたい。
- スポーツフェスタへの参加、徳山夏祭りでのミニオープンキャンパス、あじさい通りの清掃や学内献血の呼びかけ等を学生会執行部で行った。周南リビングラボの活動や、SDGsアンバサダー（※2）として、住吉中学校と一緒に「働く×SDGs」をテーマに、修学旅行に行った際に周南市にあるものないものを比較して勉強しようと考えている。学内にとどまらず企業、地域住民、学生が連携して周南市を盛り上げるために考えることが大事だと思っている。
- 子ども食堂、中学生とのSDGs教育に関する活動を進めていきたい。夏休みに児童クラブでアルバイトとして子どもたちと交流した。地域交流の場として料理教室をやってみたい。子育て中の方が参加し子どもと離れる機会となり参加者同士が交流する場になれば、産後のケアにつながると思う。
- 将来保育園を経営したいと思っている。子どもと関わることができる子ども食堂等の活動に参加している。SDGsアンバサダーとして、全学生を巻き込んで活動したい。学生の本分である勉強を忘れないようにしている。

〈市長のコメント〉

学生の様々な活動に感謝し、学生の力に大いに期待している。平和教育については、小学生に回天記念館を訪れて平和について考えてほしいと思っている。SDGsの活動については、我々世代が考えないといけなかった問題を、学生の皆さんが、SDGsが当たり前のような社会になるよう取り組んでいることを大変嬉しく思う。大学生は、子どもの目線から見ると輝いて見える。今後も子どもたちの目標となるよう発信してほしい。

【学生から市長に質問してみたいこと】

- Q 貧困家庭やひとり親家庭のことを勉強した。市長が御主人を亡くされた後市長として活躍されているが、子育て等も含めどうやって乗り越えることができたのか。
- A 当時の悲しみは比較するものがないくらいであったが、3、4年経ってやっと自分を取り戻すことができた。地域の皆さんが引っ張りあげてくれた。市長になったのは周南市を変えていきたいという思いがあったからである。
- Q 徳山駅前開発に期待している。商業棟に図書館で勉強をする学生にとって利用しやすい飲食店が入ってほしいと思っているがどのような店舗が入るのか。
- A 駅前棟が完成し、今後はマンションやホテル、商業棟ができる。複数の会社と交渉中と聞いている。周辺にない店舗が入るといいと考えている。もうしばらく期待して待つほしい。

Q SDGs アンバサダーとして市の役に立ちたいと考えているが、市が周南公立大学の学生に求めるものは何か。

A 周南市は課題も多いが、皆さんにアイデアをもらい、課題解決に向けて一緒に考えていく機会を作っていきたい。学生の力に大いに期待している。学生に求めるものは一番が学業、次にそれに伴って就職先が決まることである。また、目に見えるかたちで地域への貢献をしてもらい受け継いでいくことで、中学生、高校生が周南公立大学に入りたいと思うようになると考えている。

Q 子どもが保育園で熱を出した時に、ひとり親、共働きの家庭だと迎えに行くことが難しいため一時的に預けることができる場所があるといいという声を聞いたことがある。将来そのような場所を作りたいと思っているが、市長はどのように思うか。

A 周南市には病児保育施設が4箇所ある。働く母親の代わりとして、子どもの面倒を見ることができるし、保育園の中に保護者が来るまで待つことができる場所を設けるのも1つである。一部の保育園には看護師がいるところもある。皆で守っていく方法を考えていかなければいけない。

Q 周南市は山間部に囲まれている。移住や子育てで田舎に住みたいという人も今後出てくると思う。中山間地域の魅力を発信していく必要があると考えるが、市が行っている中山間地域へのアプローチや今後の展望を聞きたい。中山間地域の対策として古民家を改装して安く提供したり、グランピングなど若者が非日常を過ごす場を作ったりすれば、地域との交流の場にもなる。鹿野地区の会に参加した際に、地域の文化や観光を大事にすることが大切だと地域の人が話されていた。

A 周南市では、「日常をときほぐす観光」というオリジナルの言葉を作って観光にも力を入れている。歴史、伝統、文化があり、自然、大地の力の中で人が生きること自体に魅力があるので、そこを見て癒されてほしい。そのような中で子育てができるようにするために空き家対策、就労支援等を行っている。その他にも提案があれば教えてほしい。

Q 多くの事業があるが市としてこれから一番力を入れたい取組は何か。

A 市は「2050年を乗り越えられる周南市になる」というパーパスを掲げたが2つの柱がある。1つ目の柱は人口減少問題である。大学の公立化も次の世代につないでいく取組のひとつである。もう1つの柱はCO₂の問題に取り組むことである。現在主力である石炭を使った火力発電ではCO₂が出るため、CO₂の回収、石炭に変わるエネルギーが必要である。なお、周南コンビナートが化学工学会からCO₂削減のモデルケースに選ばれ、これから方向性が決まっていく。世界では、安心安全な社会の中で自分らしく豊かに生きていけることが求められているので実現に向けて進みたい。

Q 周南コンビナートの企業をスポンサーにして、eスポーツの大会をキリンビバレッジ周南総合スポーツセンターで定期的で開催すると県内外から若者が集まると思うがどうか。eスポーツは注目され、市場価値もあると思う。

A 先日のスポーツフェスタでもeスポーツが行われていた。これも、コンベンションの1つになると思う。開催することになった場合は力を貸してほしい。

Q 中学校、高校に上がるにつれて、スポーツクラブや部活動等のスポーツができる環境が減っている印象がある。部活動は学校に希望するものがなかったり、指導者の不足があったりと問題があり難しい点もあるが、市はスポーツの発展についてどのように考えるか。

A 全国的にも問題になっている。秋月中学校をモデルにして、これまで学校の教員が指導してきた部活動の地域への移行について検討をしているところである。市では、体育協会と連携しながら取組を進めている。市内の中学校では、周南公立大学の学生にも部活動指導の協力など力を発揮してもらっている。引き続き協力をお願いしたい。

※1 地域貢献推進委員会

地域の成長エンジンをめざす周南公立大学の学生の地域活動に関する主体的な活動を支援するための学生団体

※2 SDG s アンバサダー

地域貢献推進委員会と連携して学内外のSDG s を推進するチーム